

上部消化管内視鏡検査の説明および同意書

【目的・方法】

食道、胃、十二指腸の病気を診断するための検査で、鼻や口から内視鏡を挿入し、空気で膨らませながら食道・胃・十二指腸を観察します。必要に応じて粘膜組織の採取や色素撒布を行います。強い咽頭反射（オエツとなる反応）や、合併症が起こった場合、体動が激しい場合は安全を最優先にして検査を中止することもあります。麻酔薬にアレルギーのある方は事前にお知らせください。

【検査まで】

- ① 午前中の検査の場合は、検査前日の夜9時以降はなにも食べないで下さい。午後の検査の場合には検査6時間前までです。検査1時間前まで水やお茶、スポーツドリンクなどの水分補給は大丈夫です。
- ② 当日朝の内服薬（糖尿病薬以外）は内服して下さい。当日朝の糖尿病のインスリン注射は中止して下さい。基本的に抗血栓薬（血液をサラサラにする薬）は継続したまま行います。
- ③ 当日検査10～15分前から鼻やのどの麻酔を行います。

【検査】

- ① 検査時間の目安は5～10分程度です。
- ② 検査中に口の中に溜まってくる唾液は、飲むとむせるため垂れ流して下さい。
- ③ 検査中に異常が疑われる場合は、色素を撒布して粘膜組織の一部を採取（生検）する組織検査を行います。

【検査後】

喉の麻酔がきれるのに1時間程度かかりますので、それまで飲食はしないで下さい。検査後に喉の奥が多少ひりひりしたり、胃内に空気が残り多少お腹が張ったりすることもあります。時間が経てばなくなります。組織を採取された方は2時間以上経ってから消化の良いものを食べて下さい。検査当日は刺激物、アルコールを避けてください。

【鎮静剤使用に関して】

鼻から内視鏡を挿入する場合、口から内視鏡を挿入する場合いずれも、希望に応じて鎮静剤を使用することができます。鎮静剤は検査の際に緊張を和らげ、検査を楽に受けて頂くために使用します。静脈から注射して使用しますが、静脈炎（血管の周囲が赤く腫れたり痛みを伴う）を起こす事があります。また、呼吸循環抑制を起こすことがあるので、指先で血液中の酸素濃度をモニターしながら検査を行います。当日車やバイクで来院された場合、鎮静剤は使用できません。

状態に応じて検査後1時間程度休んでいただくことがあります。しばらくの間はふらつき、ねむけ、一時的な物忘れなどが現れることがあります。翌日まで車、バイク、自転車の運転はできません。または重要な判断を要する仕事はしないでください。

※ご高齢の方はできる限りご家族と一緒に来院してください。

【合併症（偶発症）】

すべての医療行為にはリスクがあり、ある一定の確率で合併症が起こります。

本検査においても下記の合併症が報告されています（過去5年間の消化器内視鏡学会全国調査）。

- ① カメラがこすれることや嘔吐による喉から十二指腸までの粘膜裂傷、出血、穿孔（穴があくこと）
- ④ 粘膜組織の一部を採取すること（生検）による出血
- ⑤ 使用する薬剤（咽頭麻酔剤・鎮痙剤・鎮静剤）によるアレルギーショック・低血糖・不整脈など
- ⑥ 咽頭の損傷・穿孔、誤えん性肺炎
- ⑤ 治療中の病気（脳梗塞・心筋梗塞など）の悪化、その他

日本消化器内視鏡学会が行った第5回全国集計（2010年）では、これらの合併症は0.005%、死亡例も0.00019%と報告されています。これらの合併症が起きた時は、適切な処置を行いますが、入院・手術が必要と判断した場合は入院施設への転送手配を行います。その際の診療も通常の保険診療で行われます。

【費用】

3割負担での自己負担額として約4000円～約12000円

（使用薬剤、処置内容、生検個数により異なります）

なお、初診料または再診料・投薬料等は別途必要となります。

この度上記のとおり内視鏡検査の必要性と偶発症の可能性について説明を受け理解しましたので、検査を受けることに同意します

西暦 年 月 日 患者氏名
